



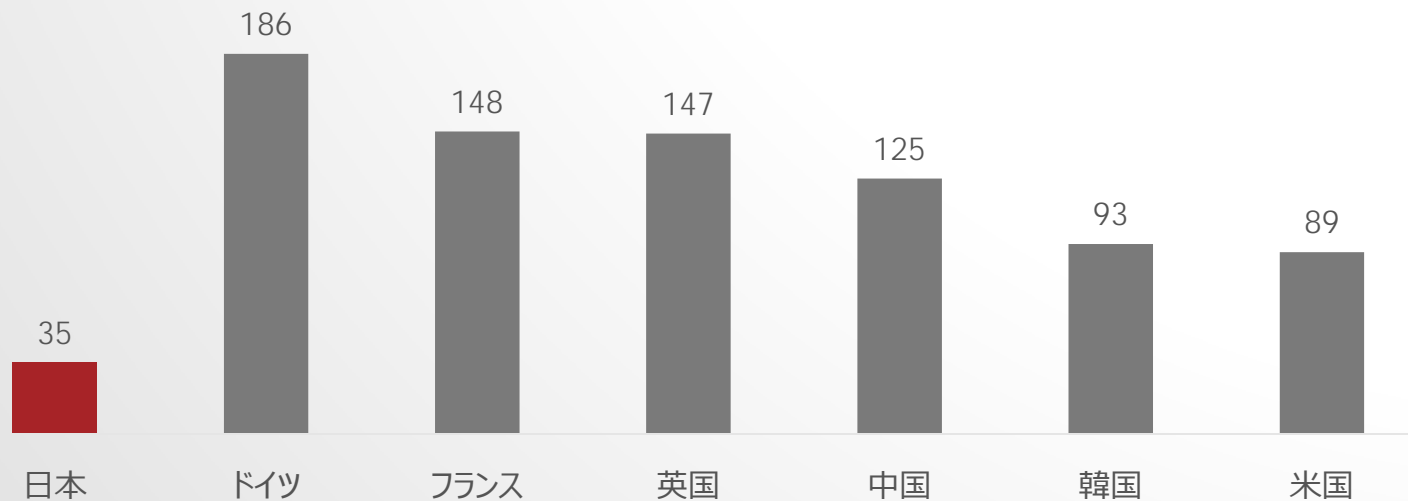
ビジネス界は投資モデルをどう捉えるのか -投資家の視点とホスト国経済への示唆-

2016年7月12日
経団連 原 一郎

1. 投資協定の背景

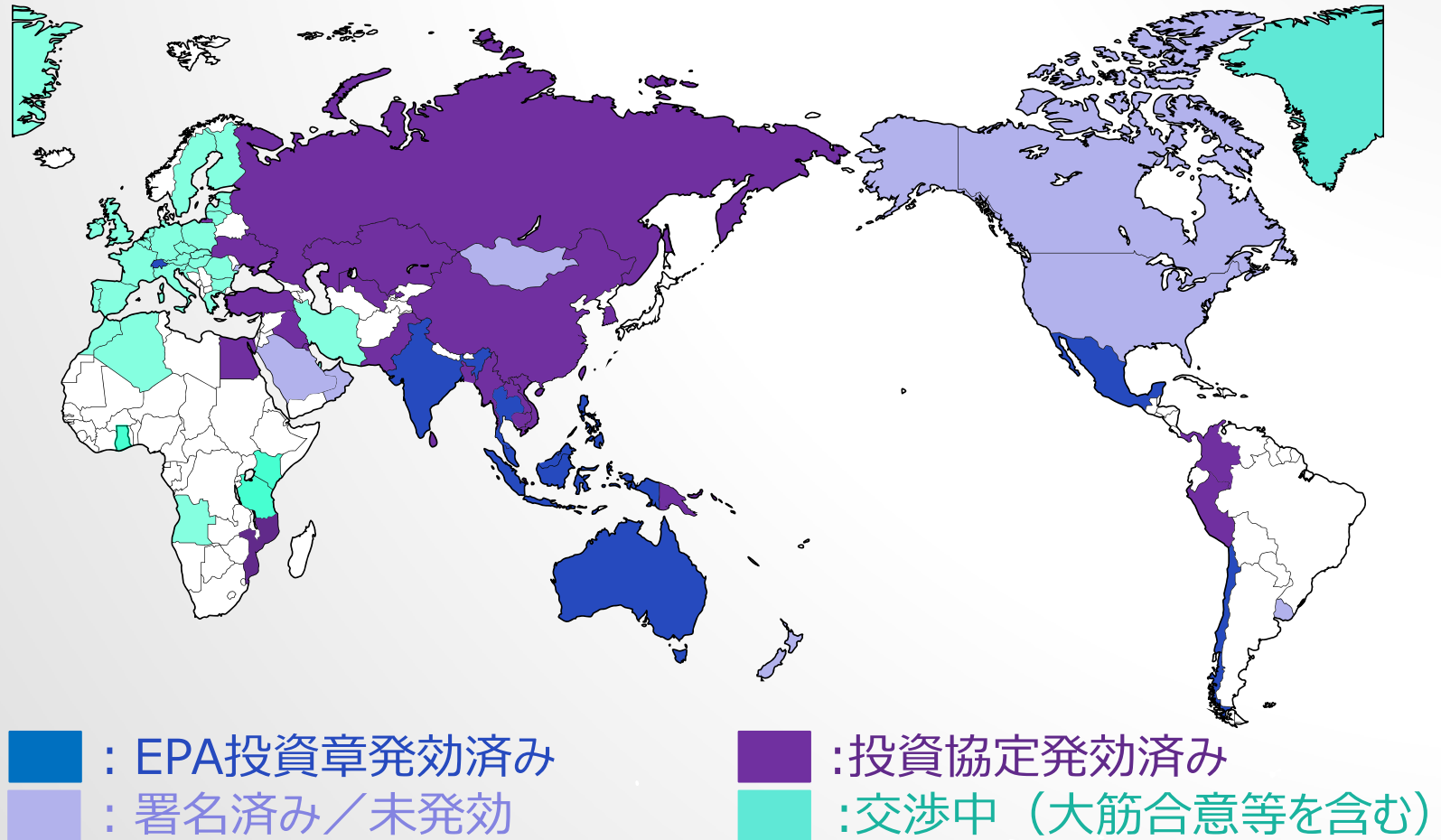
- 対外直接投資の重要性の高まり
(2000年比約2.6倍、2005年度以降、所得収支と貿易収支が逆転)
- 他方、わが国の投資協定等の締結数 (35本) は諸外国から大幅に劣後
〔ただし、署名済み未発効の協定、交渉中の協定を合わせると79 (うち28は日EU EPA) の国・地域をカバー〕

【発効済投資協定等の数】



出典：UNCTAD (日本以外)

2. 日本の締結状況



外務省、経済産業省資料をもとに作成

3. 経団連の提言

「投資協定等の締結加速を求める」（2015.12.15）国・地域の例

（1）交渉中の協定等の早期妥結と発効

- 投資協定：アンゴラ（大筋合意、中断中）、アルジェリア、カタール、アラブ首長国連邦、ケニア、ガーナ、モロッコ、タンザニア、イスラエル（実質合意）、サウジアラビア（2013年4月署名）
- 投資章を含むEPA/FTA：バーレーン（交渉延期）、GCC、日中韓FTA、RCEP、日EUEPA、TPP（2016年2月署名）、日トルコEPA

（2）新規交渉開始

- ブラジル、南ア、セネガル、キューバ、ナイジェリア、ボリビア、エクアドル、アルゼンチン、パナマ

（3）既存の協定の見直し・改訂交渉

- エジプト（1977年保護協定）、スリランカ（1982年保護協定）、香港（1997年保護協定）、パキスタン（1998年保護協定）、バングラデシュ（1998年保護協定）、ロシア（1998年保護協定）、フィリピン（2006年EPA）、タイ（2007年EPA）、インド（2011年EPA）、イラク（2012年保護協定）

4. 最近の懸念される動き

① 保護範囲の限定

(UNCTAD World Investment Report 2015より)

▶ 外国投資の保護範囲の削減の提案

将来の国際投資レジームのデザインオプションとして：

- 衡平・公正待遇の限定・不採用
- アンブレラ条項の不採用
- ISDSの不採用、特定分野のISDSからの除外、投資家の提訴権限の剥奪

▶ 投資協定等への懸念の高まりと背景についての解説

- 「投資協定が、他の条約同様に国家を拘束し、紛争解決手続き（ISDS）を通じて国家への強制力を有することが認識されるようになった。・・・」
- 「2008年の経済危機や国家の持続的な開発への意識の向上により、公共目的に基づく国家による規制権限を確保する必要性が認識されるようになった。・・・」

← Right to Regulate（公共目的等）があれば、政府が外国投資家に対して、投資を保護しなかったり、恣意的な扱いや自国民と比較して不当な差別をしてよいか？

4. 最近の懸念される動き

② ISDSの利便性の低下

新たなメカニズム：常設仲裁廷・上級審の設置等

- EU-カナダ（未発効）、EU-ベトナム、TTIP（提案）、日EU（提案）
 - 常駐の判事
 - UNCITRALの透明性ルール適用
 - 敗訴者負担
 - 上級審の設置と将来の「国際投資裁判所」への付託

← 懸念：投資家の利便性の悪化とビジネス振興への悪影響

- 二審制による手続きの長期間化・コスト増
- 裁判官の中立性・公平性・専門性への疑問
 - 投資家による裁判官の選定はできない
 - 法律家（国際公法／国際経済法／国際投資仲裁の専門）であることが求められているが、ビジネス・投資実務の観点がどの程度理解されるか
- ビジネス上の秘密保持が困難となる恐れ
- 敗訴者負担等、費用面のリスク増大、費用が工面できない投資家の保護の低下
- さらなる投資仲裁廷メカニズムの混在・複雑化
 - 二国間協定の裁判の場合、二国間条約に関係のない第三国の国籍から、どのような判事が裁判長となりうるのか

4. 最近の懸念される動き

③ 投資家の追加的な義務負担

投資協定等に企業の社会的責任（CSR）が盛り込まれる例

- TPP（Art 9.16）: The Parties reaffirm the importance of each Party encouraging enterprises operating within its territory or subject to its jurisdiction to voluntarily incorporate into their internal policies those internationally recognized standards, guidelines and principles of corporate social responsibility that have been endorsed or are supported by that Party.
- India model BIT: under the chapter on investor obligations, requiring investors to comply with host State legislation and voluntarily adhere to internationally recognized standards of CSR.

新たな提案（UNCTAD, World Investment Report 2015）

- An option is to require tribunals to consider an investor's compliance with CSR standards, endorsed by the parties, when deciding an ISDS case.

←懸念：

- 外国投資家が投資受入国の法令の遵守を義務付けられることは当然。CSRを投資協定の中に設ける必要性なし
- かって外国投資の萎縮要因となる恐れ

⇒ 投資協定により規律される義務は政府を対象とする内容に限定すべき

5. 投資協定モデルの将来像

—投資協定・ISDS批判をどう考えるか

ISDSは投資先の国家の規制権限を不当に侵害するか？

- ISDSは、投資協定等に基づく義務に国家が違反したことにより、外国投資家の投資財産に損害が生じた場合にのみ、当該投資家が損害の補償を受けることを可能とするもの
- 仲裁判断によって当該政策・規制の撤回・変更の義務を課すものにあらず。過去の仲裁判断においては、内外無差別かつ適正な手続に基づく、正当な公共目的の規制の場合、損害の補償は認められないとされているところ

ISDS・賠償金によって投資受入国政府が不当な損失を被っているか？

- ISDSを含む投資規律は、仲裁による賠償金の支払いの可能性を通じ、合意した投資ルール of 履行を促すものであり、外国投資受け入れの円滑化、投資ビジネスの予見可能性を向上させるもの。これを通じて、投資受け入れ国の経済成長と雇用促進に資する制度

投資ルールは外国投資家を不当に優遇しているか？

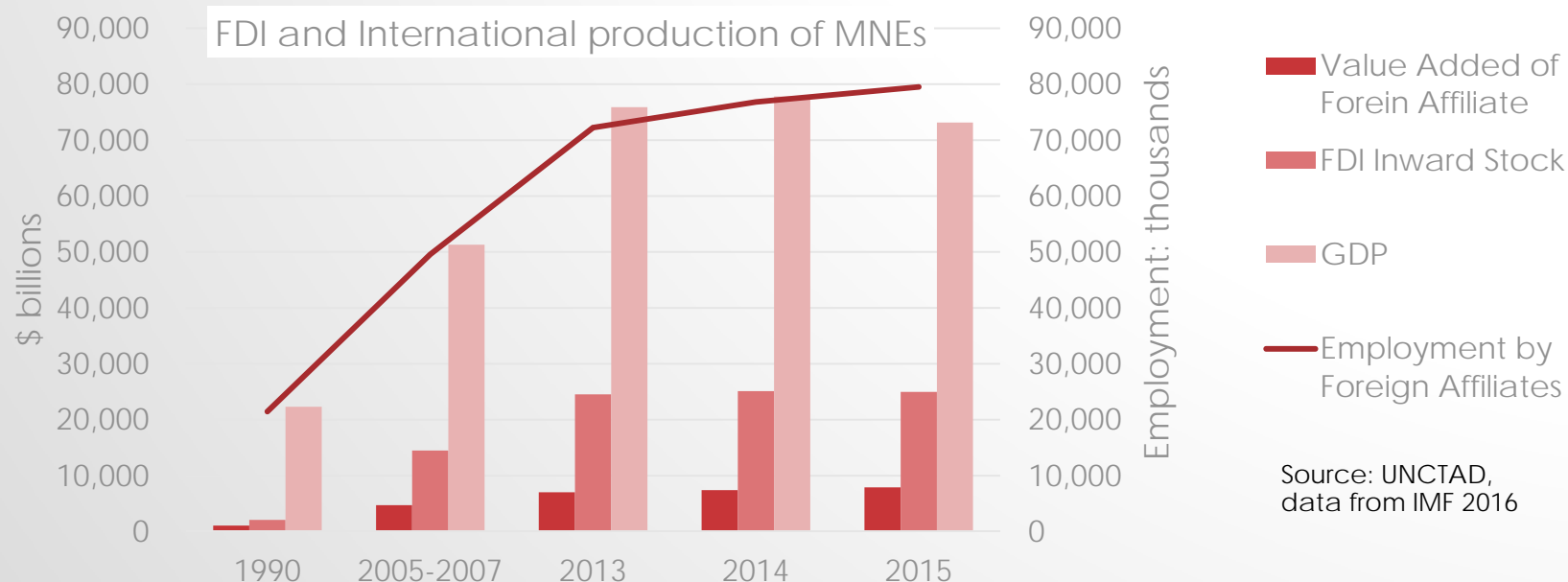
- 外国投資家にとり、投資受入国の法制度にのみ頼ることに、多様なリスク・懸念あり（法令の突然の改廃、外国投資家に対する恣意的な法令や要求、差別的な法令適用や収用の恐れ）
- これが1960年代からの投資協定締結の背景（1960年代から70年代前半にかけ、62カ国で870以上の顕著な収用等のケースあり）

出典：Salacuse（1990）“BIT by BIT: The Growth of Bilateral Investment Treaties and Their Impact on Foreign Investment in Developing Countries”

6. ホスト国経済への示唆

—外国投資家に保護・仲裁を提供する理由

- 国際投資は、投資受入国を含む世界経済の成長と雇用に極めて重要
 - 投資国・投資家：事業機会の拡大
 - 投資受入国：国内雇用の創出、新たなビジネス・モデル、技術等経営資源の導入⇒ 外国投資を適切に扱うルール（内外無差別・収用の補償）は投資受入国にとっても必要
- 世界経済に占める国際投資のウェイトは急速に拡大
 - 対内直接**投資残高**のGDP比：1990年 9.3% → 2015年 **34.4%**
 - 外資による**付加価値**のGDP比：1990年 4.8% → 2015年 **10.8%**
 - 外資系企業による**雇用**：2015年には1990年の**3.7倍**に



【参考】経団連提言（2015.12.15）と政府アクションプラン

| 経団連提言 | 政府アクションプラン |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 国・地域の例 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交渉中等の協定の早期妥結・発効 ・ 新規の交渉開始 ・ 既存の協定の改訂、EPA締結交渉の開始 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年までに「100の国・地域」を対象に署名・発効 ・ 投資実績・見通し、産業界の要望、外交方針、相手国の事情を勘案 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 協定に盛り込むべき内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 投資の保護 ・ 投資の自由化/外資参入規制への規律 ・ 投資家対国家の仲裁条項（ISDS条項） ・ 投資活動の円滑化、送金規制の撤廃、 ・ 清算・撤退の自由 ・ 締約国が投資家になした約束の遵守義務 ・ ビジネス環境整備 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 高いレベルの質の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自由化型の協定を念頭に、投資家保護等の分野でISDS条項の挿入も含め高いレベルの質を確保 ・ 産業界の具体的なニーズや相手国の事情等に応じながら、スピード感を重視し柔軟に交渉 ○ 新たな企業活動にも対応した投資環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ サービス・電子商取引を含めることも検討 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な保護範囲の確保 （範囲の限定・例外の設定は避けるべき） ・ 投資家対国家の仲裁条項の重要性 （投資先の規制権限を侵すものにあらず） ・ 企業の社会的責任等の扱い （企業に対する規律は不要） | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際投資ルール <ul style="list-style-type: none"> ・ 投資の保護の強化・自由化・円滑化を実現する21世紀に相応しいルールづくりを主導すべき | <ul style="list-style-type: none"> ○ 多数国間の議論 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多数国間フォーラムなどにおける投資環境整備に向けた国際的な議論に積極的に貢献 |

経団連提言本文は以下を参照
<http://www.keidanren.or.jp/policy/2015/119.html>

7. 国際投資ルールづくりをめぐる議論

